

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 23 年度

事業所番号	2774800383		
法人名	株式会社 ラポール		
事業所名	グループホーム和み庵		
所在地	松原市北新町1-3-18		
自己評価作成日	平成 23年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 7月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全利用者が毎日落ち着いて暮らし、楽しく過ごせるように日々利用者の訴え要望に対して出来る限り応えています。又、地域との交流(小学生との交流・地域行事への参加等)や行事・クラブ活動(趣味活動)に力を入れています。</li> <li>・職員は常に利用者の傍におり、転倒の事故がとてもしません。</li> <li>・毎日が退屈にならないように、作業的な事や学習的な事など様々な取り組みをしています。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774800383&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774800383&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 6月 23日		

市内で最初にグループホームを開業して10年目に入った1ユニットのホームです。最寄駅近くの住宅地に建つ、木造二階建てのホームの前庭は広く、道路に面していますが、門や柵はなく、玄関前にはベンチを設置し、近所の方が買い物途中に立ち寄り、休憩をしたり、季節の花の傍で利用者と話を交わす等、開放的で訪ねやすい雰囲気になっています。ホームでは「歩こう会」と称して、毎朝近くの神社へ散歩に出かけます。利用者は、買い物や食材購入時には買い物籠と財布を持って出かけます。外出時に出会う近隣住民との挨拶や駅前の清掃活動に参加して、近隣住民との交流が育ってきており、老人会にも加入し交流を図っています。利用者が楽しみにしている「浴衣祭り」には、全員で好みの浴衣を着て神社に行ったり、涼みながらベンチでスイカを食べたりします。職員はいつも利用者一人ひとりの状態を理解し、ホームのどこに居ても利用者が退屈せず、安心して、自分で楽しさをみつけられるように日々の生活を支援しています。利用者は笑いとお話のある家庭的な雰囲気の中で、それぞれ自分の居場所を得ています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念「地域に貢献できる活動を行っていく」を作り、目の付きやすい場所に掲示している。	ホームの運営理念として「①家庭的な環境の下、慌てず急がせず利用者のテンポに合わせて穏やかな気持ちで過ごそう。②お互いの意見を認め合い、相手の存在を敬う。③和気あいあいと過ごせるよう自発的な活動を引き出そう。」を定めて玄関に掲示しています。更に地域密着型サービスの事業所として「利用者及び事業所全体が、地域に役立ち貢献できる活動へ積極的参加し、人の輪、地域の輪を大切にします。」とホームの理念を追加で掲示しています。職員は、毎月のスタッフ会議時や、日々の申し送りミーティング時に理念を確認し、共有しています。利用者が退屈せず、安心して、自分で楽しさを見つけられるような日々の生活を支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の散歩で顔見知りも増え、たくさんの方と挨拶を交わしている。又、玄関前のベンチに地域の方が一休みし、利用者と会話を交わすこともよくある。小学校の行事に参加したり、年1回子ども達が遊びに来てくれている。</li> <li>・婦人会の方々が話し相手で訪問してくれている。</li> </ul>	毎朝の散歩やスーパーへの買い物時に、近隣住民とは挨拶を交わします。毎月近くの駅前の清掃活動にも参加し、近隣との交流が育っています。老人会に加入し、食事会や敬老会に参加します。散歩の途中で公民館での「ぜんざい会」の情報を得て、後刻参加できました。利用者は小学校の運動会に参加したり、6年生を送る会に出席したりします。また、小学3年生が体験学習にホームを訪れる等、次世代との交流が生まれます。ボランティアの訪問により、フラダンス、お茶会などを楽しみます。日常的には話し相手として婦人会の方の訪問を受けます。ホームの前庭に設置しているベンチには、買い物帰りの近隣住民も立ち寄って休憩してもらい、利用者と馴染みの関係が生まれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	最寄り駅や事業所周辺の清掃活動を利用者と共にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表の方、地域代表の方の意見を聞き、利用者が生きがいのある、楽しい生活が出来るように、地域の交流や行事を行っている。</p>	<p>昨年度、運営推進会議は年5回の開催でした。毎回、市の担当職員の参加を得ていますが、地域代表の参加を得ることができていませんでした。会議では利用者の状況報告や、行事实施報告及び今後の行事予定等を報告します。次回からは民生委員の参加を得られるよう働きかけました。また、地域の老人会に加入し、老人会の方の参加も依頼しています。</p>	<p>運営推進会議は概ね2か月に1回、年6回開催することが求められます。</p>
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>書類は出来る限り市役所まで足を運び、担当者と対面し報告等を行っているが、頻度は少なくなっている。</p>	<p>市の担当課には、運営推進会議の議事録や外部評価結果を持参し、提出しています。また、介護保険の認定更新申請などの場合にも立ち寄り、担当職員と情報交換をしています。グループホーム連絡会を立ちあげ、相互訪問の交流等を実施し、まずはホームを見学してもらいました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修を行い、身体拘束のないケアを行っている。しかし、玄関については、利用者の事故防止のために施錠をしている。</p>	<p>職員は研修会を通じて、身体拘束の廃止・虐待防止の徹底を心がけています。身体拘束の事例はありません。利用者に閉塞感を与えない自由な暮らしが必要なことを職員は理解しており、玄関は以前、日中開錠していました。しかし、リビング・食堂が2階にあり、常時1階玄関の見守りができていない時に利用者が一人で外出したことがあり、家族の要望により、現在は、常時施錠しています。毎朝、散歩に出かける他にも、利用者が外出したい様子場合は職員が同行します。また、見守りが可能な場合、玄関を開放して玄関前のベンチで夕涼み・日向ぼっこ等を楽しみます。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を用いて、分かりやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほぼ毎月1回、家族の面会時に現状報告や意見の聞き取りを行っている。又運営推進委員会で報告を行っている。	家族の来訪時にはできるだけ、職員から気軽に話かけるようにしています。家族からの意見・要望があれば、来訪時や電話連絡時に聴き取り、必要なことはスタッフ会議時に検討しています。急ぎの場合は連絡簿に記載し、共有しています。家族には毎月利用者の身体状況・生活の様子・行事予定等を使い伝えていきます。玄関には意見箱を設置していますが、利用者や家族からは直接意見や要望を聴き取っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>            代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の申し送り時、月1回のスタッフ会議で意見を出し合っている。</p>	<p>スタッフ会議は毎月1回開催しており、利用者に対するケアや業務についての気づきを話し合い、提案や意見交換を行っています。管理者は出された意見を運営に反映しています。職員は、毎日のミーティング時にも管理者に対して随時提案できる体制を取っています。会議には夜勤者も参加しています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>家族の面会等の日時に合わせて、勤務の調整をするように努めている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な内部研修の開催と外部研修への参加を促すために案内を周知している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会と見学会を行った。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談等があればすぐに面談をして、ゆっくり話を聞き、解決に結び付けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談等があればすぐに面談をして、ゆっくり話を聞き、解決に結び付けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、他の相談機関を紹介したり、専門機関に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持つ事で、ホームの一員であることを実感してもらっている。出来ることは何でも職員と一緒にやっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事には、出来る限り家族が参加できるよう日程調整し、一緒に楽しい一時を過ごしてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方へ年賀状や手紙を出すなどして、いつでもホームに遊びに来てもらえるような関係作りが出来ればと企画している。	家族と共に以前から馴染みの銭湯に行き、帰りに食事をする等、入居以前の習慣を継続しています。家族と墓参りにも行きます。自宅に戻り、宿泊する場合もあります。入居以前にカラオケ仲間だった友人の訪問もあります。職員は、馴染みの関係を継続することができるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、体操、レクリエーション等の様々な場面で利用者が不穏にならないよう、楽しく会話ができるような配置を常に考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の案内を出したり、ボランティアの協力の依頼をするなどして、契約終了後も関係を断ち切らないようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、本人に確認しながらサービスを行っている。困難な場合は、家族に確認したり、職員間で話し合いをして決めている。	入居前には自宅を訪問して、利用者本人や家族の思い・希望を聴き取っています。入居後は日々の関わりの中で利用者の希望を聴く姿勢を持ち、思いを受け止めます。聴き取った内容は個別介護記録に記入します。職員は毎日個別介護経過記録を必ず目を通し、情報を共有しています。	入居後に職員が関わることで得た、利用者の思い・意向等については、個別介護経過記録を読んで共有していますが、入居後の経過や知り得た新しい情報を一目で把握できるような書式を活用してはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、面会時に利用者及び家族より生活歴等は必ず聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中は主に体操や散歩及び入浴を行い、午後からは入浴、レクリエーションを基本に行っている。その他、個々に合わせた家事仕事や趣味活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたり、本人及び家族との話し合い、又職員同士で意見を出し合い計画に反映している。</p> <p>毎日の申し送り時に計画に変更等がないか検討し、変更があれば見直している。</p>	<p>初期には利用者・家族からの情報を基に介護計画を作成し、家族に説明の上、署名を得ています。毎月開催するスタッフ会議では、利用者一人ひとりについてカンファレンスを実施しています。基本的には6ヵ月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しをしています。また、利用者の状況に応じて期間内でも見直しをする場合があります。一番新しい介護計画書は個別ファイルとは別に、介護計画書と介護経過記録と共にファイルして職員は共有しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を確認し、必要な時は介護計画を変更している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>未実施。今後どのような支援ができるのか検討していく。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	話し相手、折り紙、茶道、フラダンスのボランティアに来てもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科に往診してもらっている。又、週1回の訪問看護及び週1回歯科の往診にも来てもらっている。主治医、訪問看護は24時間365日緊急時の対応が可能である。	協力医療機関の内科医と精神科医により、月2回の往診があります。歯科医の往診は週1回あり、全員が口腔ケアも含め受診します。内科医師とは24時間オンコール体制を取っています。日常的には週1回、訪問看護師が来訪します。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護のサービスを利用している。訪問時及び電話連絡にて相談、適切な看護等受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、状態を把握するために定期的に面会へ行き、家族や病院関係者と情報交換し退院等の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前に重度化等でグループホームでの生活が困難になった場合の対応方法について説明をいている。</p>	<p>入居時にホームでの看取りは実施しないという方針を説明しています。協力医療機関とは夜間もオンコール体制をとっており、緊急対応が必要な場合は、協力医療機関から救急受け入れ病院を指定してもらいます。入居後利用者の状態が重度化した場合には医師・家族と話し合い介護計画の見直し等について検討しています。ホーム内での介護が難しくなった場合には、他施設への転居も検討する場合があります。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に研修を実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、災害発生時の備えとして食材や飲料水を置いている。</p>	<p>年2回の消防避難訓練を実施しています。昨年11月には消防署員の指導の下で訓練を実施しています。非常災害時の備蓄品は飲料水・食品等を準備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>管理者が記録に必ず目を通しチェックを行う。又、その都度口頭で指導している。</p>	<p>個人情報に関する取り組みは事業所内に掲示し、職員にも周知しています。プライバシー保護に関する研修も実施しています。スタッフ会議時にも、利用者を見守る時の声かけ、対応について、強く制止するような言葉になりがちになっている日常会話について、振り返り「言葉遣いに気をつける」ことを全員に周知しています。職員は、入社時に守秘義務に関する誓約書を交わしています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>必ず本人に説明を行い、納得した上で行うように心掛けている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度ホームの決まり事はあるが、強制ではなくその日の気分や体調に合わせて、本人に確認してから行っている。又、趣味活動等で希望のものがあれば提供するよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に理美容はお店へ行き、カラー等も行い、オシャレにしている。手作りのネックレスやブレスレットを皆さんつけています。入浴後は化粧水や保湿クリームをつけています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に行ったり、皮むきや千切り等を行っている。又、配膳、下膳も一緒にしている。	食事は毎食ホームで調理しています。食材は毎日利用者と一緒に近くのスーパーに買い物に行きます。法人本部の栄養士から、1カ月の食事の献立表を提示してもらいます。職員は献立を参考にして、その日の食材に合わせて食事を準備します。利用者は下ごしらえ等の調理を手伝います。職員の工夫により、野菜を食べやすい和え物等に、少しずつの量で品数を増やします。盛り付け、配膳も利用者は手伝います。職員は全員同じ物を利用者と共に食べながら、さり気なく必要な部分のみサポートをしています。また、職員は食事中、食材で季節の話題を提供したり、利用者と会話が弾む雰囲気作りをしています。下膳、後片付けも自由に加わり、職員と利用者が区別なく台所と食卓を行き来しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事量、水分量が少ない時には、記録 し職員全員が把握するようにしてい る。水分の少ない利用者は水分チェッ ク表を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指示のもと、個々に応じた口 腔内清掃をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄表をつけ排泄パターンを把握し、 全員がトイレで排泄出来るようにして いる。 夜間はリハビリパンツとパッドを着用し ているが、日中は普通のパンツに履き 替えパッドのみをつけている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把 握し、必要な方には声かけ、誘導、介 助を行います。リハビリパンツから布 パンツとパッドに変更できた方、失禁 が少なくなり、トイレでの排泄が可能に なった方等、改善がみられます。精神 薬の服用により、歩行が不安定なた め、夜間は居室でポータブルを使用し ていた方が、精神薬の服用が不要に なった時点で、夜間もトイレ誘導に切り 換る等の支援をしています。	利用者の尊厳を守る意味でも、今後は、 排泄チェック表を利用者や訪問者から は、目に付きにくい場所へ設置する工夫 をしてはいかがでしょうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操と水分量の確保に努め、 便秘時には腹部マッサージをするなど して、出来る限り自然排便を促してい る。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間はある程度決めているが、順番・曜日は利用者の希望、状態に応じて柔軟な対応をしている。	利用者の希望や状態に合わせて週3回の入浴を実施しています。一人で浴槽に入れない利用者には、職員二人で介助し安全を確保しています。入浴を促すと拒否する方には気分転換を図り、促し方を変えるなどの工夫により、2日に1回、3日に1回は入浴しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息が必要な利用者には、自由に昼寝や休息が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも確認できる場所に置いている。配薬時には曜日、個数、名前等を確認し、誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、役割意識を持ってもらうために、個々が出来る家事仕事を毎日行っている。又、趣味活動(茶道、ピアノ、踊り等)の支援も行っている。気晴らしで外出や日向ぼっこをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ中って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	神社やスーパーに出かけたり、喫茶店へ行ったりしている。 夕涼みを兼ねて玄関前のベンチでお茶を飲んだりしている。	「歩こう会」と称して、歩ける利用者はもとより、車いすの方も毎朝9時半頃から近くの神社に散歩に出かけます。暑い日も寒い日も雨が降っていなければ、毎日実施しています。近くのスーパーへはそれぞれ、買い物籠と財布を持って、食材の買い出しに行きます。家族と共に墓参りや銭湯に出かける方もいます。お花見等、遠出をすることもあります。また、2～3名の利用者と電車に乗って、デパートへ買い物に出かけ、服を買ったり、喫茶店に立ち寄り楽しめます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭管理が出来る方には、財布を持ってもらい、買い物の際にご自分で支払いをしてもっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者からの希望があればいつでも電話の使用や手紙を出す支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ローカは季節に応じた壁画を飾り、写真を貼る等しているので、利用者が立ち止まり見て楽しんでいる。	ホームの前庭は道路に面していますが、門や柵はなく、玄関前にはベンチを設置し、季節の花が咲き、開放的で訪ねやすい雰囲気になっています。ベンチには近所の方も一緒に寛ぎます。玄関上がり口付近に並べた椅子は外出の機会が多い利用者にとって、靴の着脱等、外出の準備やおしゃべりの場にもなっています。1階廊下壁面には、利用者と共に毎月作成する大きな貼り絵を掲示したり、行事の写真、利用者の紹介顔写真を掲示しています。2階の食堂テーブルはレイアウトしやすい八角形になっており、利用者と職員がさり気なく顔を合わせながら落ち着いて座れる雰囲気です。リビングの窓際には職員の寄贈のエレクトーンが設置してあり、職員の演奏に合わせて唄ったり、利用者も演奏します。リビングに接した和室は一段高くなっており、広いだり、制作作業や洗濯物たたみ等に有効利用しています。利用者は笑いと会話のある家庭的な雰囲気の中で、それぞれの場を自分の居場所にしていきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でお茶をしながら、落ち着けるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していたタンスや鏡台等を居室に置いている。	居室には利用者が自宅で使い慣れた家具・家族の写真・好みの小物や人形・ぬいぐるみ等を持ち込んでもらい、住み慣れた生活空間の継続を保てるよう配慮しています。職員手作りの写真入りの誕生日記念アルバムが掲示しており、家族にも喜ばれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来ることを把握し、家事手伝いや塗り絵、漢字や計算、裁縫等を個々に合わせて行っている。		